科目区分	基礎科目	科目名	ヒトと生物	科目コード	17S050	担当者	松尾　公則
対象学生	栄養士コース2年生	学期区分	前期	単位数	2	卒業要件	選択必修
						免許・資格要件	

科目の主題	学修成果との関連（大◎、中○、小△）					
ヒトは地球生態系の中の一員であり、他の動物や植物との連携なしには生きていくことはできません。「ヒトと生物」では、身近な動物を通じて、生態系のことを学びます。	1．「尽心」誠実な人柄と人間力		2．「創造」高度な知性と創造力		3．「実践」明確な意思と実践力	

科目の到達目標	①誠実性・真摯性	②多様性・協働性	③知識・技能	④思考・判断・表現・創造力	⑤主体性・実行力・自立性	⑥就業力・貢献力
1．身近な動物の生態を知ることで、生物について学ぶ楽しさを確認する。						
2．ヒトと野生動物の関わりを知ることで、自然との付き合い方を知る。						
3．ヒトは地球生態系の中の一員として生き続けていることを認識する。						
4．	△	◎	◎	○	△	△
5．						

授業方法	成績評価の方法と割合
毎時間プリントを配布し講義形式で展開していきます。	提出物（60%） 定期試験（40%）

準備学修	課題等への対応
特にありませんが日ごろより生物の話題に関心を持ってニュースや新聞を見てください。講義が終わった後に30分ほど復習をしてください。	レポートに対してはコメントをつけて添削し返却する。

授業計画	
第1回	蚊とヒトと暮らし
第2回	カエルとヒトの暮らし
第3回	ネズミとヒトの暮らし
第4回	ゴキブリとヒトの暮らし
第5回	ヘビとヒトの暮らし
第6回	タヌキとキツネとアライグマとヒトの暮らし
第7回	ネコとヒトの暮らし
第8回	コウモリとヒトの暮らし
第9回	カメとヒトの暮らし
第10回	カタツムリとヒトの暮らし
第11回	ウサギとヒトの暮らし
第12回	ホタルとヒトの暮らし
第13回	イモリとヤモリとヒトの暮らし
第14回	危険な動物とヒトの暮らし
第15回	長崎県の天然記念物

教科書・参考書	受講生へのメッセージ
なし	ヒトの暮らしに関わることの多い動物を、生態や文化などいろいろな角度から紹介します。動物に興味のある学生の受講を希望します。